

令和2年8月7日

各位

トモニホールディングスグループの令和3年3月期第1四半期決算概要について

トモニホールディングス（本社：香川県高松市、社長：中村 武）は、令和3年3月期第1四半期（令和2年4月1日～令和2年6月30日）連結業績等の概要と、当社グループの中核企業である徳島大正銀行（本店：徳島県徳島市、頭取：板東豊彦）及び香川銀行（本店：香川県高松市、頭取：山田径男）の単体業績等の概要について発表いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. トモニホールディングス

(1) 令和3年3月期第1四半期（令和2年4月1日～令和2年6月30日）連結業績

当第1四半期における損益状況は、経常収益は、国債等債券売却益及び株式等売却益が増加したこと等により、前年同期比1,260百万円増加して18,362百万円となりました。経常費用は、国債等債券売却損、株式等売却損及び株式等償却が増加したこと等により、前年同期比1,860百万円増加して15,274百万円となりました。その結果、経常利益は、前年同期比600百万円減少して3,088百万円となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比855百万円減少して1,986百万円となりました。

当第1四半期末における主要勘定残高の状況は、総資産残高は、前年度末比1,726億円増加して4兆1,657億円、純資産は前年度末比77億円増加して2,277億円となりました。また、譲渡性預金を含む預金等残高は、前年度末比1,819億円増加して3兆7,813億円、貸出金残高は、前年度末比431億円増加して2兆9,498億円、有価証券残高は、前年度末比55億円増加して6,475億円となりました。

		令和3年3月期 第1四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	18,362百万円	1,260百万円
	経常費用	15,274百万円	1,860百万円
	経常利益	3,088百万円	△600百万円
	親会社株主に帰属する四半期純利益	1,986百万円	△855百万円
		令和3年3月期 第1四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	41,657億円	1,726億円
	純資産	2,277億円	77億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	37,813億円	1,819億円
	貸出金	29,498億円	431億円
	有価証券	6,475億円	55億円
	自己資本比率（国内基準）	8.66%	0.14%

(2) 令和3年3月期（令和2年4月1日～令和3年3月31日）連結業績予想

令和2年5月15日に公表しております令和3年3月期第2四半期累計期間及び通期の連結業績予想（経常利益及び親会社株主に帰属する当期（中間）純利益）につきましては、修正ございません。

2. 徳島大正銀行

(1) 令和3年3月期第1四半期(令和2年4月1日~令和2年6月30日)単体業績

当第1四半期の損益状況は、経常収益は、貸出金利息及び有価証券利息配当金が減少したこと等により、前年同期(合算ベース)比518百万円減少して8,497百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、資金利益が減少したこと等により、前年同期(合算ベース)比294百万円減少して6,795百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、経費が減少したこと等により、前年同期(合算ベース)比111百万円増加して2,266百万円となりました。

経常利益は、与信関連費用は増加したものの、債券関係損益及び株式等関係損益が増加したこと等により、前年同期(合算ベース)比470百万円増加して2,448百万円となり、四半期純利益は、前年同期(合算ベース)比200百万円増加して1,657百万円となりました。

当第1四半期末の主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人・法人預金ともに増加し、前年度末比1,039億円増加して2兆1,124億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比1,053億円増加して2兆2,267億円となりました。また、貸出金残高は、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取り組みました結果、前年度末比157億円増加して1兆6,458億円となりました。なお、自己資本比率(国内基準)は8.00%となりました。

金融再生法開示債権額は、取引先企業の事業再生・経営改善への積極的な取り組みによる債務者区分のランクアップや不良債権の積極的な回収を図りました結果、前年度末比361百万円減少して22,654百万円、総与信に占める割合は1.35%となりました。

		令和3年3月期 第1四半期	
			前年同期(合算ベース)比
損益	経常収益	8,497百万円	△518百万円
	コア業務粗利益	6,795百万円	△294百万円
	コア業務純益	2,266百万円	111百万円
	経常利益	2,448百万円	470百万円
	四半期純利益	1,657百万円	200百万円
	与信関連費用	378百万円	159百万円
		令和3年3月期 第1四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	23,053億円	669億円
	預金等(譲渡性預金を含む)	21,124億円	1,039億円
	総預り資産	22,267億円	1,053億円
	貸出金	16,458億円	157億円
	有価証券	3,672億円	49億円
	自己資本比率(国内基準)	8.00%	0.19%
不良債権	金融再生法開示債権額	22,654百万円	△361百万円
	総与信に占める割合	1.35%	△0.04%

(注) 各損益における前年同期比の計数は、令和2年3月期第1四半期における旧徳島銀行及び旧大正銀行の計数を単純合算したものと比較した計数を記載しております。

3. 香川銀行

(1) 令和3年3月期第1四半期（令和2年4月1日～令和2年6月30日）単体業績

当第1四半期の損益状況は、経常収益は、有価証券利息配当金及び株式等売却益が増加したこと等により、前年同期比1,640百万円増加して8,170百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、資金利益が増加したこと等により、前年同期比142百万円増加して5,692百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、経費が減少したこと等により、前年同期比197百万円増加して2,072百万円となりました。

経常利益は、債券関係損益が減少したこと等により、前年同期比183百万円減少して1,404百万円となり、四半期純利益は、前年同期比176百万円減少して1,132百万円となりました。

当第1四半期末の主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人・法人預金ともに増加し、前年度末比772億円増加して1兆6,725億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比788億円増加して1兆8,088億円となりました。また、貸出金残高は、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取組みました結果、前年度末比271億円増加して1兆3,134億円となりました。なお、自己資本比率（国内基準）は9.34%となりました。

金融再生法開示債権額は、取引先企業の事業再生・経営改善への積極的な取組みによる債務者区分のランクアップや不良債権の積極的な回収を図りましたが、前年度末比2,809百万円増加して28,803百万円、総与信に占める割合は2.15%となりました。

		令和3年3月期 第1四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	8,170百万円	1,640百万円
	コア業務粗利益	5,692百万円	142百万円
	コア業務純益	2,072百万円	197百万円
	経常利益	1,404百万円	△183百万円
	四半期純利益	1,132百万円	△176百万円
	与信関連費用	415百万円	190百万円
		令和3年3月期 第1四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	18,596億円	1,047億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	16,725億円	772億円
	総預り資産	18,088億円	788億円
	貸出金	13,134億円	271億円
	有価証券	2,779億円	2億円
	自己資本比率（国内基準）	9.34%	0.13%
不良債権	金融再生法開示債権額	28,803百万円	2,809百万円
	総与信に占める割合	2.15%	0.16%

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

トモニホールディングス株式会社 経営企画部
株式会社徳島大正銀行 企画部
株式会社香川銀行 総合企画部

TEL：087-812-0102
TEL：088-656-1118
TEL：087-812-5132